

## 味覚音痴のグルメ紀行

箸休め

メニエール病というめまいがする難病を発症して五年、この病魔のため不便は覚悟で自動車免許返納、そのため今までのように自動車で出かけることも出来なくなり、ライフスタイルが激変。新木場に会社があるのに、自動車という足をもぎ取られ、新木場のここ数年の激変も、まわりの人からの話で知るといふ浦島太郎状態、また休日にホームセンターに買い物に行っても、自動車がないので重い荷物は持ち帰れなくなってしまいました。そんな世間から失脚？した老人が、まだ唯一出来るのは「食べ歩き、呑み歩き」くらいになってしまいました。でも全く知らない店には入りにくいし、テレビのグルメ番組で「おいしい！」って叫んでいるのは全部演技で、信用できません。そんなへそ曲がりの老いぼれがこの組合月報をパラパラとめくっていたら、名案が閃きました。そうだ！この月報の連載コラム「私のお気に入りの店」って本当にそんなに美味しいのか確かめてみたくなりました。少々悪趣味ですが、ミシュランガイドの調査員気取りで調査してみることにしました。相棒は私より辛口の評論をする女性(女房ですけれどね)を同伴させました。

まず手始めは小料理屋「心らん」(2020年6月号掲載)です。場所が私の母校、元加賀小学校の近くだし、前々から材木屋の友人にも太鼓判を推された店なので、手始めに行ってみました。記事の通り美味しく頂きました。メニューに「金目鯛の煮付け」があるときは、いつもこれを注文してその店の腕前を評価することにはしているのですが、「心らん」の煮付けはほんとうに美味しく、最後にこの煮汁を白いご飯にかけて完食、大満足して最初の取材は大収穫でした。(後日談ですが、その次に伺ったときは、バツタリ当組合の超有名人と一緒にになってしまいました。どうもこのお店は地元では既に人気店のようです。しかしながら最初に行ったときは女将が和服で接客してくれて高級小料理屋風でしたが、このときの女将は普通の洋服だったので味までちょっと落ちた気分でした)

つぎの取材は、私は高齢なので、風邪をひかないように天気の良い平日の夕方に、新木場から地下鉄で4つ目の新富町へ向かいました。「新富町は思い出の街、若い頃に浮き名を流した街」と言いたいところですが、実は数年前に心臓発作で運ば



ささやがあった路地の粋な街並み(築地)

れた聖路加病院の最寄り駅、それ以来一生通院しなくてはならない因縁の街、そんな訳でこの辺りは土地勘もあり、新富町（正確には築地4丁目）の割烹「ささや」(2021年2月号掲載)へ向かいましたら、、、、あらら？？目的の店が見当たりません。出だしから躓いてしまいました。「ささや」があったと思われる場所は工事中、どうも近頃は予約をしてから行くのがルールのように、予約電話をしなかったのが間違いでした。この店もコロナ禍が原因か閉店してしまったようです。でもこの界隈は銀座の近くにもかかわらず、情緒のある構えの店が多く、しばらく街並みを散策してしまいました。

そんな訳でこの日はまだ日も高く時間もあったので、次回の候補店としてメモしてあった人形町のビストロ「シェ・アンドレ・ドゥ・サクレクール」(2018年12月号掲載)へ向かいました。今度は前もって予約の電話を試みたら「本日はあいにく満員で申し訳ありません」と丁寧に断られてしまいました。月報にも「最近はなかなか予約が取れない店」とも書いてありましたがそのとおりでした。でもどうせ帰り道、築地から人形町は地下鉄で3駅、せめてどんな店か拝んで？みようと直行しました。すると「ありました、ありました」それはユトリ口の絵にあるような佇まいの外観、そして店内では映画に出てくるような豊満なフランスのマダムが楽しそうに注文を取っていました。掲載した写真は私の下手な素人スナップですが、パリの下町のレストランの雰囲気を感じられますか？しかし本当のこの店の美味しさや楽しさはオリジナルの記事を読んだだけで読者諸兄もきっと行ってみたいくなりますよ。しかしながらそんなわけで、この日の私のグルメ紀行は二軒とも不成立、残念無念！

それにしても月報の「私のお気に入りの店」のコーナーは毎月どんなサプライズの店が出てくるのか楽しみにしています。例えばユニークな記事で驚いたのは、今までに立ち食いそばの店が二軒紹介されています。立ち食いそばでこんなに「うんちく」を語れるグルメ雑誌なんてありませんよね。これからも楽しみです。

最後にひとつ提案があります。私は老齢で日々「断捨離」生活で、本や雑誌は処分しているので、月報のバックナンバーも殆ど残ってないのです。そのため今までの「お気に入りの店」シリーズも調べようがなく残念至極です。そこで編集委員の方々、何とかこのシリーズを本にまとめられませんか。この内容ならば一般の街の本屋さんに並べても売れること請け合いです。是非とも御一考願います。



シャンソンでも聞こえてきそうな洒落た店



出版された「お気に入りの店」の本を見ている私